〔山槐記〕元暦元年七月五日辛卯、今夜自閑院遷幸大内、略○中内侍所渡御、内侍所自西海未還御、只御辛櫃許也、用如在例、無左將、右少將忠季初度雖可供奉、陣依闕如勤之、藏人宮内權少輔親經供奉、無劔璽行幸、我朝始也、可悲々々、○又見玉海

〔玉海〕文治三年六月十二日壬午、此日御方違行幸也、法皇○後白河御參籠今熊野之間、大炊御門亭無指合事、仍有行幸于彼亭、明後日十四日依御靈會可避閑院、給賢所同可有渡御、仍白川押小路殿爲京外之間、内侍所不御京外例也無臨幸者也、○中略今日内侍所供奉、少將信清、五位藏人宗隆、依内侍所渡御、今日無留守、但女房少々留候、仍藏人瀧口、幷大番武士等令守護之、

〔續史愚抄一亀山〕文永元年六月六日己酉、爲被避祇園神輿路、行幸一院○後嵯峨御所、萬里小路殿至十四日可爲御所者、賢所不渡御、行幸仙洞例也、

〔北山殿行幸記〕此度の行幸○應永十五年には、かしこ所をばぐし申されず、都の外には渡らせ給はぬ事にてあるとかや、さりながら、もし御逗留の日數も久しくなり侍らば、さのみ御留守におき申されん事もいかゞとおぼしたり、

〔北山抄九羽林要抄〕行幸

時刻御南殿、○中略上蔀次將開輦戸、置璽筥、後閉之、自餘臥弓跪候、内侍置御劔於輦中御前、右頭外又、舊例後置之云々、即御輿、大將發警蹕聲、次璽筥傳授初人、令置左邊、

〔唐六典八門下省〕凡大朝會、則奉寶以進于御座、車駕行幸、則奉寶以從于黃鉞之内、

〔扶桑略記二十四醍醐下〕延長五年丁亥二月十四日、行幸六條院、○多字巳四刻上御輿、○略中右中辨英明朝臣執劔、左少辨希世執璽筥、

〔山槐記〕永暦元年十二月廿七日辛未、今夜行幸大内、元三間可御之故也、戌刻出御、○略中御輿寄南階、予開輦戸、置御劔、次乘御、次入璽筥、閉輦戸、出御、

〔實宣卿記御即位由奉幣部類記所引〕承元四年十二月十日甲子、今日爲被立伊勢幣、行幸神祇官、如法、○略中忠信